

**市民のみなさんお一人おひとりが
地域で安心して暮らせるまちづくりをめざし
市発足後初「京丹後市社会福祉大会」開催**

11月16日

平成20年11月10日

京丹後市役所

少子高齢化が進む中、家族形態の多様化、個人の価値観の変移や地域共同体意識の希薄化などにより、現在、地域では、子育ての不安や児童虐待、ひきこもり、支援を必要とする高齢者の増加など、さまざまな問題に直面しています。

こうした中、市では、サロン活動など地域独自の福祉の取り組みや6町のボランティアグループが各町の枠を越え「京丹後市ボランティア連絡会」が設立されるなど、福祉活動を通じた地域づくりの取り組みが広がりを見せ、それぞれの分野で、地域福祉の大切さを認識し、人と人とのつながりを尊重した活動が活発化してきています。

本年、京丹後市が誕生して5年目という記念すべき年を迎え、市民のみなさんをはじめ、社会福祉協議会や社会福祉施設関係者、民生・児童委員、ボランティア及び行政等の福祉関係者が一堂に会し、それぞれの役割を確認し連携を深めるとともにより**一層の地域福祉の発展と市民一人ひとりが地域で安心して暮らせる福祉社会の形成を目的として、市発足後初めてとなります「京丹後市社会福祉大会」を開催**します。

■主 催 京丹後市・京丹後市社会福祉協議会

■日 時 11月16日（日） 13：30～（受付13：00～）

■場 所 京丹後市峰山総合福祉センター コミュニティホール（峰山町杉谷）

■出席者 市内福祉団体等関係者 約200人

- 表彰者 市社会福祉功績者表彰 47人
市社会福祉協議会社会福祉事業特別功労者表彰 190人及び64団体
市社会福祉協議会社会福祉事業協力者感謝状 9人及び3団体

■内 容

(第1部) 表彰式典

- 13:30 開会
京丹後市長 挨拶
- 13:40 表彰及び記念品贈呈
- 14:00 来賓祝辞
(京都府知事 山田啓二 様)
(京都府議会議員 巽 昭 様)
(京丹後市議会議長 大同 衛 様)
(京都府社会福祉協議会会長 立石 義雄 様)
- 14:20 大会決議
- 14:25 京丹後市社会福祉協議会会長 挨拶

(第2部) 記念講演

- 14:40~15:55
演題 「笑いの中から 心の幸せさがし~福祉は我が家から」
講師 落語家 立花家 千橘 (たちばなや せんきつ) 氏
- 16:00 閉会

大会決議（案）

今、私たちのまわりでは、少子高齢化が進んでいる中、家族形態の変化や個人の価値観の多様化、地域の共同体意識の希薄化により、子育て不安や児童虐待、ひきこもり、支援を必要とする高齢者の増加など深刻な社会問題が起きています。また、近年、各地では地震や風水害など大規模な自然災害が頻発し、地域住民による日頃からの支え合い活動の大切さやボランティア活動の重要性があらためて認識されています。

こうした中、子どもから高齢者まですべての人が、生き生きと元気で安心して暮らせる地域づくりへの願いはますます大きくなっています。

京丹後市においても、今後より一層市民の皆さんと、民生委員児童委員や福祉委員、また、自治会、ボランティア、NPO、社会福祉施設、社会福祉協議会、行政などがお互い手を携え、力と心をひとつに、誰もが参加できる福祉のまちづくりを進めていかなければなりません。

私たちは、この大会を契機とし、地域社会の一員として、それぞれが自らの役割を認識するとともに、「支えあい たすけあい ふれあいのまち」「一人ひとりが役割を発揮し生き生きと輝き、共に住んでよかったといえるまち」の実現を目指して、日々地域福祉の推進に積極的に取り組んでいくことをここに決意します。

平成20年11月16日

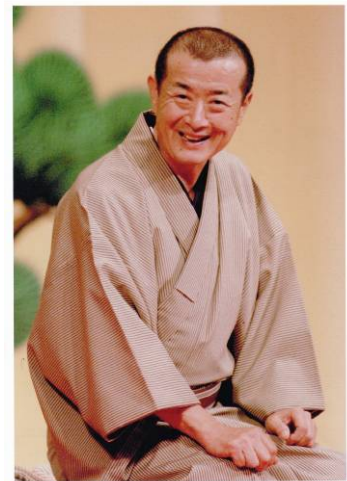
第1回 京丹後市社会福祉大会

(講師プロフィール)

落語家

立花家 千橘 氏

(たちばなや せんきつ)



1946年、樺太に生まれ、すぐに引き揚げで高知県に移り住む。障害者となった父を助け、どん底の幼少時代をおくる。中学卒業後は集団就職で名古屋へ行き、働きながら定時制高校に通う。その当時、大病を患い、長期間の入院生活をおくった。

66年、桂小春団治門下になり、桂団丸を名乗る。師匠の露の五郎襲名に伴い、露の団丸に。うめだ花月等への出演、落語と芝居の舞台『梅田トップホットシアター』やラジオのディスクジョッキーとして活躍した。

93年、四代目立花家千橘を襲名、現在にいたる。福祉問題や人権問題にも取り組む。

■受賞歴

1992年 明石市交通安全協会 交通安全功労賞

1994年 兵庫県知事より 交通安全功労賞

■主な講演テーマ

痴呆症の母はもう10年近く何も話さず、そんな千橘自身の物語を織り込んだ涙と笑いの講演をお届けしています。